

2006年度 東北大学 (文系) 数学解答・解説および配点予想

	配点予想
<p>1 (50点)【解答】</p> <p>(1) $P = (x+a)^2 - \{3c(y+b)\}^2$ $= \{x+a+3c(y+b)\}\{x+a-3c(y+b)\}$ $= (x+3cy+a+3bc)(x-3cy+a-3bc) \cdots$ (答)</p>	10点
<p>$Q = \{(x+11)+4y\}\{(x+11)+9y\}$ $= (x+4y+11)(x+9y+11) \cdots$ (答)</p>	10点
<p>$R = x^2 + (py+2qy+4)x + (py-7)(2qy+11)$ $= (x+py-7)(x+2qy+11) \cdots$ (答)</p>	10点
<p>(2) QとRを比較する。qは整数なので $2qy-9y$ であるから、$x+2qy+11=x+4y+11$ 両辺の係数を比較して、$q=2$ ここでcは整数であるから、Pが $x+4y+11$ を因数にもつことはなく、 $P=(x+py-7)(x+9y+11)$と定まる。あとは、このPの式が(1)のPの式と一致する条件を考えればよい。</p>	5点
<p>() $\begin{cases} x+py-7=x+3cy+a+3bc \\ x+9y+11=x-3cy+a-3bc \end{cases}$ のとき、係数比較より $p=3c, -7=a+3bc, 9=-3c, 11=a-3bc$ $a=2, b=1, c=-3, p=-9$</p>	5点
<p>() $\begin{cases} x+py-7=x-3cy+a-3bc \\ x+9y+11=x+3cy+a+3bc \end{cases}$ のとき、係数比較より $p=-3c, -7=a-3bc, 9=3c, 11=a+3bc$ $a=2, b=1, c=3, p=-9$</p>	5点
<p>以上より、求める整数 a, b, c, p, q は (a, b, c, p, q) $= (2, 1, -3, -9, 2), (2, 1, 3, -9, 2) \cdots$ (答)</p>	5点

1 【解説】

(1) 因数分解の典型問題なので問題ないだろう。ポイントは、

Pは (2乗) - (2乗) に気づくこと

Qは $x + 11 = X$ のように 1文字とみなすこと

x の降べきの順に整理すること

である。

(2) ポイントは q が整数であるということ。これより $2qy - 9y$ に気づくことができ、
解答のように解ける。 c の値として ± 3 の 2通り求まるが、

$P = (x + a)^2 - 9c^2(y + b)^2$ の形から 2通りあって然るべきだと確認できる。

2 (50点)【解答】

Xの取る値は、 $X = 3, 4, 5, 6, 7$ であり、その場合の数はXより小さい2数をY,Zとして選ぶ組合せで計算できる。確率 $P_X(X)$ は全事象の数が ${}^7C_3 = 35$ 通りより

$$P_X(3) = \frac{1}{35}, P_X(4) = \frac{{}^3C_2}{35} = \frac{3}{35}$$

$$P_X(5) = \frac{6}{35}, P_X(6) = \frac{10}{35}, P_X(7) = \frac{15}{35}$$

X	3	4	5	6	7	計
$P_X(X)$	$\frac{1}{35}$	$\frac{3}{35}$	$\frac{6}{35}$	$\frac{10}{35}$	$\frac{15}{35}$	1
$XP_X(X)$	$\frac{3}{35}$	$\frac{12}{35}$	$\frac{30}{35}$	$\frac{60}{35}$	$\frac{105}{35}$	$\frac{210}{35} = 6$

$$E(X) = 6$$

Zの取る値は、 $Z = 5, 4, 3, 2, 1$ であるが、その確率 $P_Z(Z)$ は、Xの場合と同様に考えて、

$P_Z(5) = P_X(3), P_Z(4) = P_X(4), P_Z(3) = P_X(5), P_Z(2) = P_X(6), P_Z(1) = P_X(7)$ となるから

Z	5	4	3	2	1	計
$P_Z(Z)$	$\frac{1}{35}$	$\frac{3}{35}$	$\frac{6}{35}$	$\frac{10}{35}$	$\frac{15}{35}$	1
$ZP_Z(Z)$	$\frac{5}{35}$	$\frac{12}{35}$	$\frac{18}{35}$	$\frac{20}{35}$	$\frac{15}{35}$	$\frac{70}{35} = 2$

$$E(Z) = 2$$

Yについては、ZをYより小さい数から、XをYより大きい数より各1個ずつ選ぶ場合と考えると、確率 $P_Y(Y)$ を求めることができる。

Y	2	3	4	5	6	計
$P_Y(Y)$	$\frac{1 \times 5}{35}$	$\frac{2 \times 4}{35}$	$\frac{3 \times 3}{35}$	$\frac{4 \times 2}{35}$	$\frac{5 \times 1}{35}$	1
$YP_Y(Y)$	$\frac{10}{35}$	$\frac{24}{35}$	$\frac{36}{35}$	$\frac{40}{35}$	$\frac{30}{35}$	$\frac{140}{35} = 4$

$$E(Y) = 4$$

以上より

X, Y, Zの期待値は、それぞれ6, 4, 2である(答)

配点予想

5点

各列2点
2 × 5 = 10

5点

各列2点
2 × 5 = 10

5点

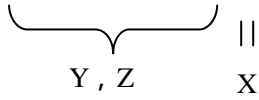
各列2点
2 × 5 = 10

5点

2 【解説】

7個から3個を取り出す場合の数が ${}_7C_3 = 35$ 通りで、多くはないと考えるならば、3個の数字の組を列挙して期待値を求めることも可能である。

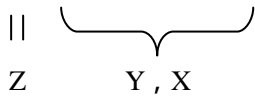
ここでは、例えば $X=5$ のとき



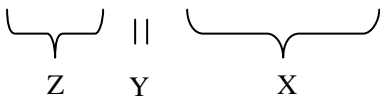
Y, Zは1~4より2個選べばよいと考えている。取り出された2数は大きいほうがY、小さいほうがZと1通りに決まるので、場合の数はXより小さい数から2つ選ぶ組合せとして計算すればよい。

同様に $Z=3, Y=3$ の場合は下図のように考えればよい。

Z=3



Y=3



3 (50点)【解答】

(1) 図-2において、対称性より CH は $\angle BCD$ を二等分する。

$$|\vec{CB}| = |\vec{CD}| \text{より}$$

$$\vec{CH} = k(\vec{CB} + \vec{CD}) \text{ とする。}$$

$$\vec{AH} = \vec{CH} - \vec{CA}$$

$$= k(\vec{CB} + \vec{CD}) - \vec{CA}$$

\vec{AH} は平面P上の任意のベクトルに垂直であるから

$$\vec{AH} \cdot \vec{CB} = 0$$

$$k(\vec{CB} + \vec{CD}) \cdot \vec{CB} - \vec{CA} \cdot \vec{CB} = 0$$

$$\vec{CB} \cdot \vec{CB} = |\vec{CB}|^2 = 1$$

$$\vec{CB} \cdot \vec{CD} = |\vec{CB}| |\vec{CD}| \cos \alpha = \cos \alpha$$

$$\vec{CA} \cdot \vec{CB} = |\vec{CA}| |\vec{CB}| \cos 60^\circ = \frac{1}{2}$$

より

$$k = \frac{\frac{1}{2}}{1 + \cos \alpha} = \frac{1}{2(1 + \cos \alpha)}$$

$$\therefore \vec{AH} = \frac{1}{2(1 + \cos \alpha)} \vec{CB} + \frac{1}{2(1 + \cos \alpha)} \vec{CD} - \vec{CA} \quad \dots \text{(答)}$$

$$(2) \vec{AH} = k(\vec{CB} + \vec{CD}) - \vec{CA}$$

$$|\vec{AH}|^2 = k^2 |\vec{CB} + \vec{CD}|^2 - 2k(\vec{CB} + \vec{CD}) \cdot \vec{CA} + |\vec{CA}|^2$$

右辺に(1)で用いた内積の値と $\vec{CB} \cdot \vec{CA} = \frac{1}{2}$, $|\vec{CA}|^2 = 1$ を代入して、

$$|\vec{AH}|^2 = k^2(2 + 2\cos \alpha) - 2k\left(\frac{1}{2} + \frac{1}{2}\right) + 1$$

$$= \frac{2(1 + \cos \alpha)}{4(1 + \cos \alpha)^2} - \frac{2}{2(1 + \cos \alpha)} + 1$$

$$= \frac{1 + 2\cos \alpha}{2(1 + \cos \alpha)}$$

配点予想

5点

5点

3点

2点

2点

5点

5点

5点

5点

$$|\overrightarrow{AH}| = \sqrt{\frac{1+2\cos\alpha}{2(1+\cos\alpha)}} \quad \dots \text{(答)}$$

(3) H が $\triangle ABCD$ の重心であるから

$$\overrightarrow{CH} = \frac{1}{3}(\overrightarrow{CB} + \overrightarrow{CD})$$

(1)より $\overrightarrow{CH} = k(\overrightarrow{CB} + \overrightarrow{CD})$

$$k = \frac{1}{3}$$

$$\frac{1}{2(1+\cos\alpha)} = \frac{1}{3}$$

$$\cos\alpha = \frac{1}{2}$$

$0^\circ < \alpha < 120^\circ$ より

$$\alpha = 60^\circ \quad \dots \text{(答)}$$

3点

3点

2点

5点

3 【解説】

(1) Hが平面P上にあるので、

$$\overrightarrow{AH} = s\overrightarrow{AB} + t\overrightarrow{AC} + (1-s-t)\overrightarrow{AD} \text{ とし、}$$

$$\begin{cases} \overrightarrow{AH} \cdot \overrightarrow{CB} = 0 \\ \overrightarrow{AH} \cdot \overrightarrow{CD} = 0 \end{cases}$$

より解くこともできるが、計算量が多い。

そこで、図-2は点A, H, Cを含む面に関し対称であることに着目する。

$\angle BCH = \angle DCH$ より

$$\overrightarrow{CH} = k \left(\frac{\overrightarrow{CB}}{|\overrightarrow{CB}|} + \frac{\overrightarrow{CD}}{|\overrightarrow{CD}|} \right) = k(\overrightarrow{CB} + \overrightarrow{CD})$$

と表すことができ、以下の計算が簡単となる。

(2) \overrightarrow{AH} の長さ $|\overrightarrow{AH}|$ は $|\overrightarrow{AH}|^2$ より内積を用いて計算できるが、ベクトルでは頻出である。

(3) 直観的に正四面体である場合と推定される。(1)が解けた人にはラッキーな問題である。

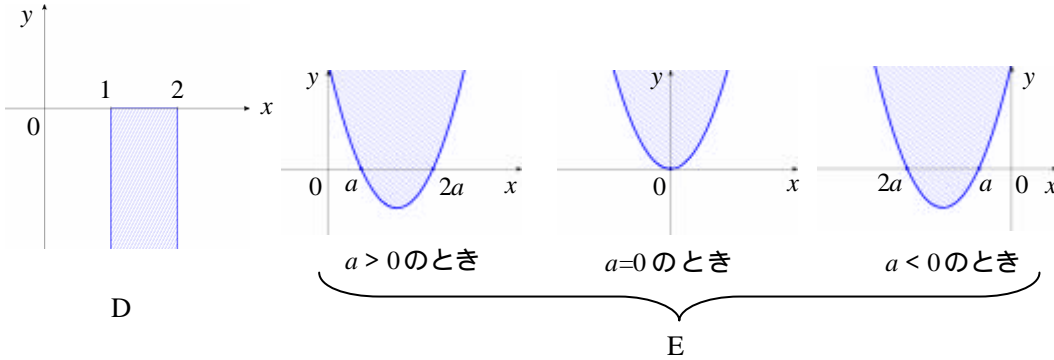
4 (50点)【解答】

$D : 1 \leq x \leq 2, y \geq 0$

$E : y \geq x^2 - 3ax + 2a^2 = (x-a)(x-2a)$

D, E は下図の斜線部分 (境界を含む) である。

E は a で場合分けされる。



D, E の図示に
各 5 点

(1) D と E が共有点をもつためには $a > 0$ が必要

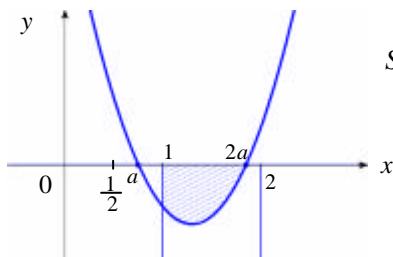
$a > 0$ のもとで、 D と E が共有点をもたない条件は

$2a < 1$ または $2 < a$ $a < \frac{1}{2}$ または $2 < a$

よって、共有点をもつ条件は $\frac{1}{2} \leq a \leq 2$ ……(答)

10 点

(2) () $\frac{1}{2} \leq a < 1$ のとき



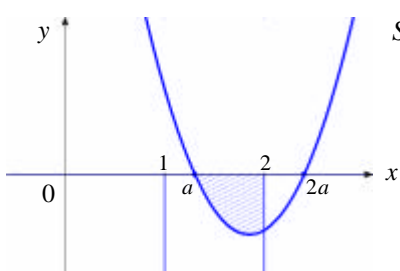
$$S(a) = -\int_1^{2a} (x^2 - 3ax + 2a^2) dx$$

$$= -\left[\frac{1}{3}x^3 - \frac{3}{2}ax^2 + 2a^2x \right]_1^{2a}$$

$$= -\frac{2}{3}a^3 + 2a^2 - \frac{3}{2}a + \frac{1}{3}$$

積分の式変形
5 点

() $1 \leq a \leq 2$ のとき



$$S(a) = -\int_a^2 (x^2 - 3ax + 2a^2) dx$$

$$= -\left[\frac{1}{3}x^3 - \frac{3}{2}ax^2 + 2a^2x \right]_a^2$$

$$= \frac{5}{6}a^3 - 4a^2 + 6a - \frac{8}{3}$$

積分の式変形
5 点

以上より、

$$S(a) = \begin{cases} -\frac{2}{3}a^3 + 2a^2 - \frac{3}{2}a + \frac{1}{3} & (\frac{1}{2} < a < 1 \text{ のとき}) \\ \frac{5}{6}a^3 - 4a^2 + 6a - \frac{8}{3} & (1 < a < 2 \text{ のとき}) \end{cases} \dots \text{(答)}$$

10 点

(3) $\frac{1}{2} < a < 1$ のとき

$$S'(a) = -2a^2 + 4a - \frac{3}{2} = -\frac{1}{2}(2a-1)(2a-3)$$

$1 < a < 2$ のとき

$$S'(a) = \frac{5}{2}a^2 - 8a + 6 = \frac{1}{2}(5a-6)(a-2)$$

増減表は次の通り

a	$\frac{1}{2}$...	1	...	$\frac{6}{5}$...	2
$S'(a)$	/	+	/	+	0	-	/
$S(a)$	0	↗	$\frac{1}{6}$	↗	$\frac{16}{75}$	↘	0

よって、 $S(a)$ の最大値は $\frac{16}{75}$ ($a = \frac{6}{5}$ のとき) \dots (答)

10 点

4 【解説】

(1) D 、 E の領域を正しく図示しよう。ポイントは、

$$x^2 - 3ax + 2a^2 = (x-a)(x-2a) \text{ の因数分解ができること}$$

a の値で場合分けして E を図示すること

である。正しく図示できれば、 $a > 0$ が必要条件であることに気づくだろう。

(2) a と 1 との大小で場合分けすることに気づけばよい。積分計算ではグラフが x 軸の下側にあることに注意しよう。

(3) 正しく増減表が書ければわかる。